

事務事業評価シート

(評価対象年度：令和2年度)

1. 基本的事項【PLAN】

①事務事業名	企業誘致促進事業					②事業番号	3413	
③事業類型	3. 政策推進事業			④開始年度	平成 11 年度	⑤終了予定年度	令和 2 年度	<input type="radio"/> 設定なし
⑥根拠法令等	法令	<input checked="" type="radio"/> 条例	規則	要綱	計画等	その他	法令等の名称: 泉南市企業誘致促進条例	
⑦実施手法	直営	全部委託	一部委託	<input checked="" type="radio"/> 補助・負担	その他			
⑧関連予算科目コード	款	6	項	1	目	2	細目	2
⑨担当部名	市民生活環境部			⑩担当課名	産業観光課		会計	一般会計

2. 事務事業の現状把握【DO】

【1】事務事業の目的・事業内容

(1)対象(誰、何に対して事業を行うのか)	対象指標(対象者数を表す指標)	単位
①りんくうタウン進出企業	①りんくうタウンの面積	ha
②	②	
(2)事業内容(具体的な事務事業の内容、どのような方法で実施しているか)	活動指標(活動の量を表す指標)	単位
りんくうタウンの土地を取得した進出企業に対して、当該土地に対する固定資産税及び都市計画税の合計額の1/2に相当する額を、5年間交付する優遇措置をとっている。	①進出企業数(報奨金支出企業数)	件
	②	
	③	
(3)意図(対象をどのような状態にしたいか、何をねらっているのか)	成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位
企業創業、工場の立地を検討している企業に対して、泉南市での操業が行いやすいように誘導する事ができる。	①りんくうタウンにおける工場立地率	%
	計算式: 販売予定地における工場立地の%	
	②	
	計算式:	
	③	
	計算式:	
(4)結果(対象を意図する状態にすることで、何に結びつくか。上位施策との関連)	総合計画体系上の位置付け	
企業のりんくうタウンへの進出が促進され、創業の促進につながる。	政策(章)	3 産業の活力が増し、賑わいと交流が生まれるまち
その他の体系上の位置付け (3-2-2-1):新産業の導入検討	施策大(節)	2 さまざまな製造業が集積し、また新たな産業が発展していくまちをめざします
	施策中	1 製造業の振興
	施策小	3 企業立地・創業の促進

【2】各種指標値、事業費の推移

		指標名	単位	H30実績	R1実績	R2実績	R3見込	R4目標	
対象指標①	りんくうタウンの面積	ha	47	47	47	—	—		指標値の推移における特殊要因などの説明
対象指標②									
活動指標①	進出企業数(報奨金支出企業数)	件	1	1	0	—	—	奨励金の対象であった企業の移転に伴い、令和2年度の進出企業数は0となっている。	
活動指標②									
活動指標③									
成果指標①	りんくうタウンにおける工場立地率	%	96	96	96	—	—		奨励金の対象であった企業の移転に伴い、令和2年度の進出企業数は0となつたため直接事業費も0となっている。
成果指標②									
成果指標③									
事業費	投入人員	正職員	人	0.09	0.15	0.15	0.00		事業費などの推移における特殊要因などの説明
		任期付職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
		臨時職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
	事業費	人件費(投入人員*単価)	千円	730	1,157	1,145	0		
	直接事業費	千円	278	278	0	0		奨励金の対象であった企業の移転に伴い、令和2年度の進出企業数は0となつたため直接事業費も0となっている。	
	総事業費	千円	1,008	1,435	1,145	0			
財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0			奨励金の対象であった企業の移転に伴い、令和2年度の進出企業数は0となつたため直接事業費も0となっている。
	府支出金	千円	0	0	0	0			
	受益者負担金	千円	0	0	0	0			
	その他特定財源	千円	0	0	0	0			
	一般財源	千円	1,008	1,435	1,145	0			

【3】事務事業開始の経緯、状況の変化、評価結果への対応

①この事業を開始したきっかけは何か。	りんくうタウンの地区の活性化のため、優遇措置を設けることで、企業の進出を図る必要があった。
②開始から現在までこの事務事業を取り巻く状況は、どのように変化したか。また、今後どのように変化していくと考えられるか。	りんくうタウン地区の企業の進出に効果があった。
③前年度の評価結果を受けて行った改革・改善の取組はあるか。	—

3. 事務事業の評価【CHECK】

〔1〕目的妥当性(必要性)

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔1〕の評価

A

評価項目	評価及び理由・説明等	
①事業サービス内容、質、規模等は市民のニーズや社会環境に合っていますか。 (他団体と比較してどうですか。)	ア. 合っている ア イ. ある程度 ウ. いない	泉南市において、りんくうタウンの活性化は不可欠であり、社会環境の面から見て妥当であると思われる。

〔2〕有効性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔2〕の評価

A

②期待どおりの成果が得られていますか。	ア. 得られている ア イ. ある程度 ウ. いない	りんくうタウンへの進出が完了し、期待通りの成果が上がっている。
③今後事務事業を工夫することで成果向上の余地はありませんか。 (事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができますか。)	ア. ある ア イ. ない	企業立地の対象を内陸部へ拡充することで、さらに市域の活性化が図れる。
④庁内の他部署で、類似の目的を持つ事務事業はありませんか、それらと統廃合や連携を行うことで、より成果を向上できますか。	ア. 類似なし ア イ. できる ウ. できない	—

〔3〕効率性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔3〕の評価

A

⑤成果を下げずに事業を工夫してコスト(直接事業費+人件費)を削減する手法はありませんか。 (業務改善、業務の委託化、委託業務内容の見直し、IT化などはできませんか。)	ア. ある イ イ. ない	—
--	---------------------	---

4. 総合評価

総合評価	評価(A~D)	個別評価の結果を踏まえて課題等を整理	A:現状のまま事業を進めることが適当 B:課題が少しあり事業の一部見直しが必要 (事業の進め方に改善が必要) C:課題が多くあり事業の大幅な見直しが必要 (事業規模、内容、実施主体の見直しが必要) D:事業の統合、休止・廃止の検討が必要
	B	りんくうタウンの企業進出に効果があったが、進出率がほぼ100%を達成しており、内陸部等への企業誘致を進める仕組みが必要である。	

5. 改革、改善案【ACTION】

<今後の方向性>

ウ	ア. 現状のまま継続 イ. 見直しのうえで継続 ↓ ウ. 終了 エ. 休止 オ. 廃止 (2 年まで) (年から) (年から)
<今後の展開方針> a. 重点化する(集中的なコスト投入) b. 手段を改善する(実施主体や実施手段を変える) c. 効率化する(コストを下げる) d. 簡素化する(規模を縮小する) e. 統合する(他の事務事業と統合する)	
①改革、改善の具体案、実施年度など	りんくうタウンへの企業立地がほぼ達成されていることから、内陸部への企業立地を促進するため、新たに企業立地促進条例を制定した。(令和2年4月1日)
②改革・改善を実現するうえで、解決すべき課題及び考えられるその解決策	—